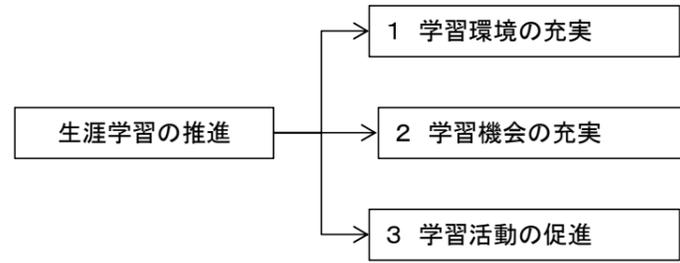


令和元年度大船渡市教育委員会の事務の執行状況等

施策 1 生涯学習の推進



<凡例>

進捗度とその理由		
進捗度	状況	成果指標
A	概ね計画どおり進捗している	当初見込み以上
B	一部に進捗の遅れが見られる	当初見込みの7割前後
C	全体的に進捗の遅れが明らかである	当初見込みの5割以下

今後の方向性	
○	現状維持
●	改革改善

基本事業 1 学習環境の充実

基本事業名	対象	意図	成果指標				進捗度とその理由等	
			項目	単位	H30実績	R1実績		R2目標
1-1 学習環境の充実	市民 生涯学習施設	学習環境、活動の場が整っている。	①「生涯学習のための施設が整備されている」と答えた市民の割合 (市民意識調査)	①%	20.7	22.2	①50.0	B 適切な施設の維持管理に努めているが、市民意識調査によると、生涯学習施設への満足度は、前年度比1.5%と微増ではあるものの、5割にも満たないことから、引き続き、学習環境の充実に向け更なる取組が必要である。



事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	H30実績	R1実績	R2目標		
1-1-1 三陸公民館施設管理・運営事業	全市民、三陸公民館	安全・快適に学習活動が行える。	施設利用状況の集計、使用料の集計・納入、設備修繕等の維持管理業務、指定管理者への業務委託	①三陸公民館利用者数 ②施設不具合件数 ③施設不具合対応率	①人 ②件 ③%	①10,635 ②3 ③50	①12,194 ②1 ③0	①10,000 ②2 ③100	A 概ね運営管理は適切に行われている。	○ 引続き、貸出業務及び施設管理業務を指定管理者に委託し、適正な維持管理に努める。
1-1-2 博物館管理事業	博物館入館者(市民、 基石海岸を訪れる観光客)	快適な環境で気仙地域の自然と文化を学ぶことができる。	施設・設備の整備(修繕)、施設の維持管理、特別開館の実施、博物館無料開放の実施(基石海岸観光まつり期間、東北文化の日等)、博物館施設の供用(市民ギャラリー・多目的ホール等)、博物館情報の提供(市広報、市ホームページ、事業案内ポスター等)	①施設設備の故障・不具合発生件数 ②施設設備の故障・不具合対応率 ③博物館入館者数	①件 ②% ③人	①12 ②100 ③7,657	①5 ②100 ③7,378	①0 ②100 ③9,500	A 概ね適切に施設管理がなされている。施設の老朽化による修繕・更新についても計画的に実施している。	○ 安全に、かつ、より多くの人の利用に供していくため、計画的に修繕等を行いながら、施設・設備の長寿命化を図る必要がある。
1-1-3 博物館施設改修事業	博物館利用者(市民、 基石海岸を訪れる観光客) 博物館施設・設備	快適な環境で気仙地域の自然と文化を学ぶことができる。	施設設備の改修、設備、大規模な修繕 ※考古・民俗展示室の空調機更新、会議室・管理人室に空調機設置	施設設備の改修済件数	件	8	2	2	A 空調機の更新や設置により、資料の適正な保存環境を確保するとともに、来場者が多い夏季をはじめ来場者の学習環境が向上されている。	○ 公共施設等総合管理計画及び個別計画に基づき、改修を計画的に推進して施設機能の維持向上に努める。

基本事業 2 学習機会の充実

基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H30実績	R1実績	R2目標	
1-2 学習機会の充実	市民	<ul style="list-style-type: none"> ・学習情報が容易に入手できる ・多様な生涯学習機会に恵まれている 	「生涯学習活動の機会がある」と答えた市民の割合(市民意識調査)	%	24.1	25.5	26.7	B 「生涯学習活動の機会がある」と答えた市民の割合は、増加傾向ではあるが3割程度となっており、仕事や家事などで生涯学習に係る時間が取りにくい状況にあることが推測される。また、「何か新たに生涯学習活動をやりたい」と答えた市民の割合が約4割なのに対し、「生涯学習関連情報が十分提供されている」と答えた市民の割合は2割程度であることから、市広報はもとより、インターネットやSNS、各種情報媒体等を活用した、より積極的な情報発信が必要である。 さらに、参加者が減少傾向にある公民館における講座をはじめ、各種生涯学習事業は、市民ニーズの把握に努め、更なる魅力ある講座等となるよう、事業内容や実施方法等を検討する必要がある。

事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				名称	単位	H30実績	R1実績	R2目標		
1-2-1 地域社会教育振興事業	地区公民館、地域公民館	活発に自主活動を行うようになる。	補助金算定、申請書受付、交付、精算書受付 ※11地区公民館に地域社会教育振興事業費補助金を交付 ※3地域公民館に地域公民館整備事業費補助金を交付	①市補助金額(地区公民館) ②市補助金額(地域公民館)	①千円 ②千円	①13,309 ②0	①13,308 ②7,358	①13,309 ②3,000	B 事業実施により、各地区のコミュニティの中核である地区公民館における活動の場と機会が確保され、生涯学習の推進、学習機会の充実が図られている。 地域公民館施設については、東日本大震災で被災し、完全に復旧できていない地域や、既存施設の老朽化で改築等が必要な地域への支援として、施設の建て替えや修繕に係る補助制度を新たに整備し、活動の場の確保を図っている。	● 地区公民館においては、社会教育機関としての役割に加え、コミュニティ活動・市民活動の拠点としての役割が拡大しており、施設のあり方や地域づくりに向けた取組を進める必要がある。 また、地域公民館においては、東日本大震災後、施設の維持や改築に向けた財源確保が厳しい地域があることから、継続的な支援が必要である。
1-2-2 市民講座事業	市民	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な分野にわたり、広く学ぶ。 ・英会話力を養うことで、外国人とのコミュニケーション能力が高まる。 ・国際理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館・図書館・博物館が連携し、市民の学習要求に応じて、専門的分野に関する多様な学習機会を提供し、成人の資質・教養・文化の向上を図るための講座等の開催(年6回程度) ・国際化が進展する中、市民の国際感覚の醸成や外国人とのコミュニケーション能力の向上を図るため、英会話講座や国際理解を深めるための講座等の開催 	①延受講者数 ②満足度の好評価比率	①人 ②%	①279 ②93.0	①341 ②100.0	①170 ②100.0	B 仕事をしている若年層・壮年層が受講しやすいよう開催時間(平日の夜間や土・日曜日)の見直し等を行っており、延受講者数が前年度を大きく上回っている。	● 講座内容が専門的であるため、参加者が限定的になっていることから、市民の多様なニーズの把握と、それを踏まえた魅力ある学習メニュー作りが求められている。また、仕事をしている若年層・壮年層の市民が受講しやすいよう、受講者に配慮した講座運営を図る必要がある。
1-2-3 博物館教育普及事業	市民	教育普及事業を通して、気仙地域の自然と文化について学ぶことができる。	博物館資料や気仙地域の自然と文化の教育普及を図るイベントの開催 ※海辺の生物観察会及び観察パンフレット刊行、市民講座、博物館スクール、教員のための博物館の日、生涯学習相談等	普及事業への参加者数	人	776	741	800	A 地質や海辺の生物等の観察会、縄文土器製作会、博物館スクールなど、気仙地域の自然と文化に関する教育普及事業を幅広く実施することで市民等の主体的な活動を支援している。博物館スクールなど、実物を観察しながらの学習では、理解が深まるとの多数の意見が寄せられている。	○ 各種支援を受けながら、必要な事業を安定的に実施しているが、引き続きニーズを把握し、施設の特性を活かして学習活動の促進に努めていく必要がある。

基本事業3 学習活動の促進

基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H30実績	R1実績	R2目標	
1-3 学習活動の促進	市民 芸術文化団体	活動の成果を発表する	①市民芸術祭出品数 ②市民芸術祭出演者数	①点 ②人	①2,708 ②3,079	①3,059 ②3,250	①3,500 ②4,000	B 芸術文化活動の最大の発表機会である市民芸術祭については、出品数が前年度比12%増、出演者数は5%増となった。増加した要因として、新たな団体による大規模行事の実施や、各地区公民館等で実施する文化祭や他行事と重複しないように日程調整を行ったことが考えられるが、今後も新たな芸術文化団体の掘り起こしを行うとともに、出演者や出品数を増やすため、幅広いPR活動を展開しながら、芸術文化に対する意識の高揚を図る必要がある。 また、依然として、市民芸術祭に携わる関係者等の高齢化、参加団体等の後継者不足、市民芸術祭に対する若年層の関心の低さが言われていることから、小・中・高校生など、若年層が参加できるような魅力あるまつりの演出を図るとともに、各団体等と協力を図りながら、芸術文化への関心と理解を図っていく必要がある。



事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				名称	単位	H30実績	R1実績	R2目標		
1-3-1 社会教育関係団体活動支援事業	社会教育関係団体	自主的な活動を充実、継続させる。	・市地域婦人団体連絡協議会、市PTA連合会事業への協力、補助金の交付 ・大船渡ユネスコ協会への一部事務支援	①主催事業数 ②補助金額	①事業 ②千円	①6 ②227	①5 ②227	①9 ②227	A 社会教育団体の活動を支援することにより、各団体と市との連携が図られ、学習活動の促進に結びついている。 また、補助金交付団体については、研修会への参加などに充てるなど、補助金目的に沿った事業費の支出をしている。	● 多様な市民活動が展開されており、現状の支援団体のみを支援する必然性が薄れてきていることから、市の各種団体の支援施策との統合や、支援のあり方などの検討が必要である。
1-3-2 生涯学習推進のつどい開催事業	・生涯学習、社会教育関係者 ・市民	生涯学習の重要性について理解を深める。	生涯学習に関する理解を深め、奨励・普及を図るため、事例発表及び講演等を実施 ※事例発表、講演、社会教育関係施設(中央公民館、図書館、博物館)の活動の紹介・PR、地区公民館・地域公民館役職員等への感謝状贈呈	①生涯学習推進のつどい参加者数 ②よりよい地域にするための地域活動に参加している人の割合(市民意識調査)	①人 ②%	①300 ②17.1	①150 ②15.8	①200 ②20.0	B 社会情勢の変化により、自己の向上を目指す生涯学習の重要性が高まっている。つどいの開催により、中央公民館、図書館、博物館をはじめ、地区公民館等の活動を紹介・PRする機会が確保され、他団体等での取り組みを知ることができ、生涯学習について市民が理解を深めるきっかけづくりとなっている。	● 市民の主体的な学習活動を促進するため、継続して事業を実施し、理解を深めていく必要があるが、社会教育関係者等の主体的な参画方法について、検討する必要がある。
1-3-3 生きがいセミナー事業	60歳以上の高齢者	継続して学習会に参加し、積極的に学んでもらう。	高齢者に対して、多様な学習機会を提供するとともに、生きがいを持ちながら学習活動を通じて習得した知識・技能を活用して積極的な社会参加ができるよう高齢者の資質、教養を図るため、市内11地区で、運営委員会を実施のうえ各種講座を開設(5月から12月までの毎月1回程度、1地区あたり6回程度)	①延べ講座参加者数 ②学習に参加して有意義だったと感じた参加者の割合	①人 ②%	①2,323 ②79.0	①2,208 ②79.0	①2,400 ②80.0	A 各地区の運営委員を中心として良好な事業運営が図られており、学習に参加した方からは、講座内容等について概ね好評を得ている。	○ セミナーの参加者は、地区によって減少したり増加したりしているが、高齢化の進展の伴い、対象者は増え続けることが予想される。高齢者のニーズに即した内容とし、新たな参加者の確保、運営方法を検討する必要がある。

□ 総括

施策名	対象	意図	成果指標				進捗度とその理由等	
			項目	単位	H30実績	R1実績		R2目標
1 生涯学習の推進	市民	主体的に学ぶことを通じて自己実現を図る	①「日頃、何らかの学習活動に取り組んでいる」と答えた市民の割合(市民意識調査)	①%	①15.8	①19.7	①45.0	B 主体的に学習に取り組む市民の割合は、前年度に比べて増加傾向にあるが、2割程度にとどまっている。また、「学びの成果を発揮する機会が得られている」と感じている人も同様の傾向にあり、学びの成果を地域で活かすことが重要となっている。今後においても、地域内での情報共有や意見交換等を行うなど、一人ひとりの持つ有意義な経験等を地域で共有する仕組みを構築・形成していく必要がある。
			②「日頃、学習活動に取り組んだ成果を活かしている」と答えた市民の割合(市民意識調査)	②%	②7.7	②9.7	②45.0	
			課題					
			<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習関連情報の効果的な発信 ・幅広い世代の関心を呼ぶニーズに沿った魅力的な学習プログラムの検討 ・生涯学習とまちづくりの連動を実現する体制の整備・強化 ・芸術文化の鑑賞機会の提供と広く芸術文化に親しむことができる環境づくり ・芸術文化活動を担う人材の育成 					